

## 2022 年度支部総会 時程

	時程	プログラム	担当	内容・資料・準備
第 1 部	13:00	本日の総会について	日名 議長－北河内	資料は事前にオンライン 配信、HP 掲載
	13:05	① 支部活動方針	古川	基本方針案・人事案
	13:10	② 研究部局方針	楠橋、中村	方針案
	13:30	③ 事務局方針 21 年度決算案 22 年度予算案	日名 下村 下村	方針案 年間活動計画 決算案 予算案
	13:50	④ 編集局方針	渡邊	方針案
	14:05	⑤ たのスポ編集班方針	窪田	方針案
	14:20	⑥ その他	古川	2022 年支部大会開催地 2025 年全国大会
	14:40	⑦ 50 周年委員会	佐々木	方針案
	14:50	諸連絡・閉会	事務局等	
第 2 部	15:00	記念講演 澤さん	司会（事務局）	
	17:15	諸連絡・片づけ	事務局等	
第 3 部	18:00	<del>交流会（新年度会）</del>	事務局	

## 2022年度支部活動の基本方針案

### 支部50年の歴史に学び、これからの新しい同志会活動を創ろう ～したいことを追求する研究活動を展開しよう！～

#### 1. はじめに

コロナ禍は、学校・保育の現場はもちろんのこと、私たち民間教育団体の活動にも大きな影響を及ぼしてきました。例会や機関会議、ブロックの活動など多岐にわたって、その意義や形態を考えざるを得ない状況が続きました。そのような中でも、研究の歩みを止めなかった大阪支部の力に、改めて勇気をもらおうとともに、その看板を背負う責任の重さを痛感しています。今年度中には、いよいよコロナ禍の出口がうっすらと見えてくるかもしれません。今までとは違う形での支部研究活動を創り出し、新しい50年の歩みを進めていきたいと思えます。

#### 2. 方針

##### ①したいことを追求する

私たち民間教育団体は、誰に押し付けられることもなく、自分たちの意思によって研究活動を展開しています。そのことを、会員一人一人が改めて見つめ直してもらえたらと思っています。

「自分は同志会で何がしたいのか」

その答えを、各部局、ブロック、プロジェクト、そして支部全体でしっかりと受け止めていきましょう。何かに追い立てられるのではなく、一度ゆっくり立ち止まってもいいのではないのでしょうか。「みんなのしたいこと」を具現化できる支部活動にしていきたいと考えています。

##### ②新しい例会の在り方、組織の在り方について考える

コロナ禍ではありますが、「新しい」研究の形態にしっかりと対応できるようになり、得られたものもたくさんありました。これからは、その糧を広め、深めていくこととなります。

しかし、多忙化や体育・運動あそびの簡略化、アウトソーシングなど様々な要因で厳しい状況に置かれている教育現場。そして、ブロックやプロジェクト活動、収支の状況など、大阪支部が抱えている切実な課題。それらの課題に真摯に向き合い、支部全体で取り組んでいきたいと考えています。50年の歴史というノスタルジックな思いも大切にしながら、時には厳しい判断を迫られることも予想されます。後ほど、全国大会の提案もします。ぜひ、みなさんの声を支部やブロックに届けてください。そして一緒に考えていきましょう。

支部長	◎◎	古川
副支部長	◎◎	日名
全国常任		前田
研究部局	局長◎◎	楠橋
	局員	朝輝
	研究部長◎◎	中村
	部員	安武、菅、大西、笹田、大瀬良
編集局	局長◎◎	渡邊
	局員	辻内、藤沢、塩田、市川、奥
たのスポ編集班	班長◎◎	窪田
	班員	武藤、船富、山本あ、前田
事務局	局長◎◎	日名
	財政部長○	下村
	たのスポ担当○	古川
	出版部	佐々木
	部局員	佐々木、宮本、濱山、神谷、出水、井上、神原、松世、斎藤、古川
	キックオフ編集	五役
ブロック （9月中に内部互選）	ブロック長○	豊能三島（ ）、北河内（ ）、南河内（ ）、 市内（ ）、中河内（ ）、泉州（ ）、 奈良（ ）
プロジェクト （9月中に内部互選）	プロジェクト長○	障害児体育（ ）、幼年体育（ ） 健康教育（ ）
関西近畿ブロック担当 サ連協担当		日名
支部大会（ ）	実行委員長	

支部大会担当ブロック

南河内→市内→中河内→泉州→奈良→豊能三島→北河内

2022. 9. 11 (日)  
浪速区民センター&ハイブリッド  
研究局長 楠橋 佐利

## 支部研究局方針案

◇支部研究テーマ「すべての子どもが運動文化の主体者となる授業づくり」  
◇研究局方針①同志会の研究成果を、**支部研究・実践を中心に**学ぶ。  
②実践づくりを集团的に進める  
③支部研究部、各ブロック、プロジェクトの研究を広げ、深める。

### 1. 新年度研究局活動方針（これからの研究活動）

今年度も、昨年度同様、ブロック、プロジェクトの研究活動と協同して例会を運営していきたい。

研究局としては、ブロックの研究活動をサポートしていくという点で、研究局がアテンド役となり、ブロックの実践や研究に向けて、「学習会の講師派遣や実践助言役を手配する」という、サポートを行う。さらに研究部の活動内容と局の活動は、多くがリンクし、行われてきた。研究部からの方針が出るが、

- (1) 各ブロックの研究に学ぶ。(研究局とブロックのコラボ)
- (2) 運動会研究の継続。
- (3) 世代交代に耐えうる同志会実践（支部の実践を中心に）への振り返りや、その背景にある理論への研究（研究部学習会を中心に）
- (4) 「教師も子どもも…授業づくり」の継続と実践提案

☆年間7回の支部研究例会の回数を4回とし、ブロック例会を例会（おもしろスクール）として位置付ける。

☆各ブロックに、実践報告、実技例会、研究講座、年間研究の成果報告など、どのような形で例会を運営するか方針を決めてもらい、その報告をもとに研究局の年間計画を決定する。

☆学習の成果は、報告として支部ニュースに紙面を割いてもらう。

※各ブロックは、今年度の研究内容や、ブロック例会としてやっていく内容を決定し、研究局に提示してほしい。その中から、支部例会（おもしろスクール）としてできないかを打診する。

### ☆昨年度の例会（例）

① 第1回支部例会（おもしろスクール）  
11月20日（土） 北河内ブロックと支部のコラボ例会

②第2回支部例会（おもしろスクール）  
2月6日（日） 泉州ブロックと支部のコラボ例会

☆テーマ…私の学級づくりについて

③第3回支部例会（おもしろスクール）  
4月16日（土） 新任教員や会員外対象の実技例会（南河内ブロック）

<内容> オンライン（13:00～15:00 すぎ）

提案者 低学年のマット運動……市川先生（北河内B）  
低学年からの跳び箱運動……安武先生  
中学年のネックスプリング…土橋先生

運営者 大阪支部研究局+南河内ブロック

④第4回支部例会 「豊能三島ブロックと支部のコラボ例会」  
6月25日（土）（14:00～17:00） 場所 なにわ区民センター

《内容》 ベースボール型ボール運動 実践報告&検討会

### 2. 支部大会

南河内ブロック中心に11月5日～6日開催予定

### 3. 今年度の活動の検討事項

年間計画が粛々と進められてはいるが、今後についてしっかりと検討していかなければならない点を挙げておきたい

#### (1) オンラインについて

昨年度総括においてあげた成果と課題である。参考にされたい。

《成果》

職場からの誘いによる一般参加者もかなりいた。さらに、アフターケアにより、さらに研究による深い学びも紹介できるきっかけとなった点で、オンラインを行ってよかった点であると考え

《課題》

オンラインでの「実技指導」の難しさを感じた。「VTRがあり、わかりやすかった」という反応があったものの、提案する先生方には、ずいぶんのご苦勞をかけた。研究局としてももう少し何か

できなかったのかな、という反省が残った。例えば、生配信であることをふまえ、マットや跳び箱における動きを、その場で実技もふくめて配信できたのではないか。

コロナの再燃により、実技例会が延期になったのは残念であったし、オンラインのみの実技研修の難しさも感じた。しかし、それでも支部例会として開催し、会員外からも多くの参加があったことは評価に値する、と感じている。対面が可能になってもできる限りのハイブリッド開催は、目指す必要があるのではないか？

## (2) 支部大会について

3年連続で、夏休みに開催予定であった支部大会は、秋に行われている。この秋開催に利点や支障があるのかないのかを吟味する必要があるのではないか？その際に検討すべき内容を羅列しておく。

○すでに、夏休みでなくとも支部大会は行えるという実績がある。

○秋開催の方が、季節的にスポーツをする時期に適している。(水泳などが難しいという側面もあるが、民間施設を使うのなら可能)

○夏休みが短縮され、ほとんどの地域では、8月下旬に2学期がスタートする。そのため、民舞教室、全国大会、支部大会とスケジュールがつまりすぎている。(＋昨年度は、大学生向けの水泳教室も行った。今後この取り組みも進めていくなおさら忙しくなる。)

▲多くの民間教育団体が、大会クラスの集まりを秋に行うので、スケジュールがかぶってしまうケースが生まれる。

1日完結型の大会への総括もふくめ、いろいろな角度からの検討が必要で、多くの会員の意見を集約しないといけないのではないか、と思われる。

## 2022年度研究部年間方針（案）

### 1、部員

○中村、安武、大西、大瀬良、

### 2、あいさつ

今年度も研究部長になりました。よろしく申し上げます。多忙極める中、自分自身ができることを精一杯やりたいと思います。研究部では、普段の三局会議でも学びになっていました。忙しいので、中々集まりにくかったり、参加後にネガティブな気持ちになったりとしてしまわないように、充実している会議を部員のみなさんには、プラスの気持ちになってもらえるようにしていきたいです。また、次も参加して実践していみたいと思えるような取り組みをして会員、部員の声聞いていきたいです。

### 3、方針。

- ① 三局会議を学習会をメインとする
- ② 学習会をシリーズ化する
- ③ 同志会の理論を大事にしつつ、how to も学んでいく
- ④ 研究局部以外の会員にも学習できるように宣伝していく
- ⑤ 部員、会員のつぶやきや声を聞いて実践へ活かす

### 4、具体的方策

昨年度は、7回の学習会を企画することができた。学習会からの学びで、実践に取り組む方もいた。部長自身も牧野さんの報告から、まがいながらも実践に取り組むことができた。

今年度も学びを深めて実践につながるような「学習会」を継続していく。学習会はオンライン形式にして気軽に多くの会員に学べるようにしていく。その中で、幅広く学習するだけでなく、一つの教材をシリーズ化して、何度か行えるようにしていく。一つこだわり学習会をする。また、部員自身が学習の発表の場を三局会議などで設けていきたい。

SNS を使い宣伝をして会員に情報を届ける。

SNS の媒体を活用して、会員に学びたいことを募集する。その中から可能な学習会を選ぶ。また、学習会とは別で三局会議をするにあたって、部員の声も聴いていく。困っていたり、現状を報告し合ったりすることで、新たな学びや実践につなげていく。

実践報告をする部員が限られているので、会員から、実践したいという方が出てきたら、研究部とコラボをして、実践報告ができる例会も設けていきたい。

5, 取り組み (未定)

9月会議 今後の予定

10月学習会

11月会議 (部員、教材の話)

12月学習会

1月会議 (部員、教材の話)

2月学習会

3月会議 (部員、教材の話)

4月学習会

5月会議 (部員、教材の話)

6月学習会

7月総会

6, 三局会議で取り組んでみたい学習

叢書輪読会、教材をまとめた (理論) 発表、

主に水泳について学んでいきたい。その中で実技が伴った学習会があればと思うが。。。

# 事務局【方針】案

## 1. 本年度の目標

- 1). 支部会員の拡大 130名  
(年度当初124名、昨年度4名増!)
- 2). 「たのスポ」拡大を5部行う  
(現支部会員購読が62部52%、3年連続0名)
- 3). 支部例会20名以上 (昨年度平均19名)  
～OB連携での子どもスポーツクラブ～ (コロナ情勢による)
- 4). 会費の11月中・完納
- 5). 支部研究大会への会員参加70名
- 6). ブロック・プロジェクト・OB会との連携強化
- 7). 健全財政化に向けて (昨年度、約20万円赤字予算を!?)

## 2. 事務局員

日名・佐々木・下村・宮本・神谷・井上・松世・古川・上野山

## 3. 各目標の総括

### 1) 「会員拡大」について

2021年度の退会者が2名、育休休会1名、入会者が6名、今年度は4名増の124名(9月4日現在)の大阪支部会員総数となりました(ニュース会員16名)。

2021年度の新入会員は、以下の通りです。

- ・長谷川千代さん(奈良B)・・・牧野さんの元職場同僚
  - ・齋藤光さん(泉州B)・・・関西大学神谷ゼミ大学院生
  - ・池田優生さん(豊能三島B)・・・元日体大学久保ゼミ生
  - ・仁田尾琴美さん、小田彩音さん、石原莉奈さん(幼年P)・・・幼年プロジェクト員
- また、今年度はすでに1名の新入会員を迎えています。

- ・岸本由佳さん(泉州B)・・・関西大学神谷ゼミ大学院生

新型コロナウイルスの影響によって実技例会などの対面活動の難しさが2年半続きました。会員拡大の直接的呼びかけの難しい状況が続いていますが、大阪支部では各ブロック・プロジェクトの活動の中で、毎年会員を迎えています。支部全体だけではなく、各ブロック・プロジェクトでの組織的活動(方針-活動-総括)が40年近く行なわれ続けてきており(1985年大阪全国研究大会開催前の3年間で構築した大阪支部活動方針)、現代らしさの象徴である電子機器をうまく活用しながら、新型コロナ禍にあっても自立した会員のコロナ事



支部例会 (内未会員)		※W=WEB	合計
9月	W21	総会記念講演・榊原義夫	交流会× 21
11月	11	おもしろ体育s①「フラフト」(備前法理)	× 11
1月	23	新春記念講演・平尾剛@HB	× 23
2月	2 (2)+W19 (3)	おもしろ体育s②「学級づくり」(泉州)	× 21
2月	W19 (1)	関西近畿ブロック研究集会@W	× 19
4月	W30(11)	おもしろ体育s③「器械運動」(南河内)	× 30
5月	9(W1)・W4	中間研究集会	× 13
6月	11+W1	おもしろ体育s④「ベースボール型」(豊能三島)	× 12
平均→			19

情に応じた主体的活動が継続され、繋がりを保ち発展させ続けているところに、この大阪支部全体としての厚みが生まれています。

この5年ほどで、大阪支部でも大学教員が増え、その影響も大きくなりつつあります。

また、神谷ゼミ生は中高体育教員志望や研究者志望の方が多く、この間大阪支部では伸び悩んでいた会員層になります。幼・小・障害の研究が中心でしたが、今後は一層の系統性研究や各領域体系の実証研究が進められることが期待されます。

事務局としては、毎月の常任会議の場で、これまでの例会や支部大会参加者を「入会声掛け対象者」として紹介し、以後の例会での声掛けを意識していただくように呼び掛けてきましたが、オンライン例会が多かったこともあり、十分にこの情報が活用されきれていないように感じます。今後も、各ブロックと連携をとって、一人でも会員拡大へつなげられるように準備していきたいと思えます。

#### 【この間の会員数増減推移】

2014年度入会者5名・退会者14名、2015年度入会者6名・退会者8名、2016年度入会者14名・退会者6名、2017年度入会者9名・退会者8名、2018年度入会者4名・退会者7名、2019年度入会者6名・退会者3名、2020年度入会者4名・退会者3名、2021年度入会者6名・退会者2名(2022年9月4日現在)

## 2)「たのスポ」購読者の拡大と継続の取り組み

3年連続で、たのスポ購読者の拡大ができていません。

2017年、2018年の5名規模の拡大は各ブロックでのたのスポ学習会を機会としていましたので、各ブロックで学習と拡大をセットで取り組んでいただければと思います。

事務局としては、会員拡大と同様に、大阪支部会員の若手を中心に未購読者名簿を毎月の常任会議で情報提示してきました。次年度も、たのスポ拡大への呼びかけを続けていきたいと思えます。

また、実技例会などの対面例会がほぼ開かれませんでしたので、なかなかたのスポを宣伝する場を持っていない一年でもありました。宣伝の機会を少しでも増やせるようにしていきたいと思えます。

## 3)「支部例会参加20名以上」～OB連携で子どもスポーツクラブ～

次頁の表にある通り、昨年度も平均19名の参加となりました。

特徴としては、4月の例会には毎年多くの人の参加がありますが、学期中旬に開催される例会への参加の難しさが例年見てとれます。

また、新型コロナ禍の副産物であるオンライン対応によって、これまで会場へ足を運びづらかった会員の方の参加が目立ちました。同時に、対面のよさ(①参加者の表情やしぐさによる理解度の把握、②報告の間の取り方、③気軽に声をかけたり手を挙げての質問のしやすさ、④集団による学習空間だからこそその集中力維持)も浮き彫りとなりました。今後もオンライン運営にこれらのことを意識的に反映させていければと考えています。

対面とウェブのハイブリッド開催やウェブのみで例会を開催してきました。当初はオンラインの開催を試行錯誤しており、参加を積極的に呼びかけるに至らないという一面もあ

りました。しかし、ウェブによって手軽に参加できる方もあり（幼年では劇的に参加者増との声。子育て世代にとっては足を運ばなくていいし音声のみ参加も可能）、研究部例会への参加も例年以上にありました。オンライン例会を2年以上開催してきて使用方法も多くの方と共有できてきたところなので、次年度もオンラインでの参加と合わせて積極的に呼びかけていきたいと思ひます。

なお、「子どもスポーツクラブ」は、新型コロナ禍を懸念して2年間、例会での開催は中止としてきましたが、今年度は新型コロナ状況をみながらOBと連携をとって開催を前向きに検討していきたいと考えています。体育同志会の研究財産を会員（未会員も歓迎）の子どもたちへ提供しながら、その間に保護者会員（未会員）が学習に没頭できる研究会を事務局として創造していきたいと思ひます。

#### 4) 「会費の11月中完納」

どんな権威にも付度せず、子どもの事実を科学的に、文化的に読み取り、より良い民主社会形成のための教育実践が可能なのが、私たちの強みです。その研究成果は、今や権威にも積極的に取り入れられており、学習指導要領でも大きな影響を与え、国を動かすまでになっています。ただし、学習指導要領に反映されたからといって、私たちの研究の方向が正しいとは限らないことを改めて自覚する必要があります。

まだまだ、日本はさまざまな面で民主後進国です（教育予算、教育環境、ジェンダー指数、報道の自由度、議員の男女比率など）。私たちの研究がますます必要とされています。自由な研究団体維持のために、会費が重要です。ぜひ、一人ひとりの会員のみなさんのご理解とご協力をお願いします。

2020年度はなんとか対面での支部研究大会が11月に豊中で開催できたため、昨年は対面研究例会が開催しづらい新型コロナ情勢にあったため、11月末時点では35%、その後12月末69%、1月末80%という納入経過でした。事務局からも納入願いを支部ニュースへ同封続けてきましたが、各ブロック・プロジェクトでの呼びかけで多くの方の協力を得られました。

12月末に会費の70%を全国納入する予定です。新型コロナ禍が継続中の今年度も11月の会費完納を目標に、何とか12月の全国事務局への会費納入を目指して、一層会員の方にも協力いただけるよう、今後も各ブロック・プロジェクトと連携を密にしていきたいと思ひます。

#### 5) 「大阪支部研究大会」成功に向けて

新型コロナウイルスの影響により、2021年度の支部研究大会（河内長野大会 2022年7月30日-31日予定）が2022年年11月5日（土）・6日（日）へ延期となりました。

事務局としては、昨年度も大会参加への申し込みを月ごとに目標を立てて集約してきました。延期日程が決まったので、中長期的な視座で、会員の60%（約70名）参加を目標にし、9月で会員30%、10月で会員40%、11月で会員60%の参加確定というタイムテーブルを発信し続け、会員の方には早めの大会参加申し込みをしていただけるよう、声かけをしていきたいと思ひます。

7月末の時点では、61名（内、大阪支部会員は47名、会員約40%）。日程が変更になったことで参加状況が変わるかと思ひますが、改めて現地実行委員会と連携をとりながら、参加状況を把握し、各ブロック・プロジェクトと共有して参加者を拡大していきたいと思ひます。

（2006年箕面88名、2007年枚方78名、2008年南河内78名、2009年市内70名、2010年中河内129名、2011年泉州95名、2012年奈良120名、2013年吹田128名、2014年北河内125名、2015年み

のお全国 523 名、2016 年南河内 88 名、2017 年泉州 89 名、2018 年中河内 134 名、2019 年奈良 84 名、2020 年 11 月豊中 110 名、2021 年 9 月枚方オンライン 80 名)。

## 6) 「ブロック・プロジェクト・OB 会との連携強化」について

事務局員として多くのブロック・プロジェクトから参加していただいていますので、各ブロック・プロジェクトの動向を事務局員全員で把握し、情報交流しながら、また大阪支部例会などの情報を密に届けられればと考えています。

多忙に拍車のかかる日々の中で、十分に連携が取れているとは言い切れませんが、粘り強く連携をとっていききたいと思います。

OB 会との連携については、新型コロナウイルスの影響で例年と比べてほとんど進まない状況でしたが、歴史学習など OB 会主催の催しを会員へ紹介して参加があるなど、細々とした連携を続けることができました。今年度も、新型コロナウイルスの影響は収まる気配がありませんが、可能な範囲で合同例会やオンラインでの合同企画によって連携を深め、大阪支部の研究・文化財産を共有できればと思います。

## 7) 「支部の健全財政に向けて」

民舞教室の参加者数減少がこの 5 年ほど続いており、また 2020 年度からは新型コロナウイルスの影響により一層の赤字財政の懸念される状況が続いていました。しかし、事務局として 2017 年度より支部ニュース印刷を印刷会社から自前で行うことで約 10 万円の支出を抑え、さらに KICK OFF もオンライン印刷により約 10 万円の支出減となりました。また、新型コロナ禍での支部大会での、参加者が想定以上にあり、予算にはなかった収入を得られることができ、なんとか健全財政を続けられてきています。

他方では、収入源が増えない状況が続いています。様々な新しい収入源（「出張実技例会」など）を事務局でも検討していきたいと思います。新しい収入源としては、8 月初旬の関西大学での学生対象のドル平講座を初めて開催するに至りました。学生との交流も今後増えてくる可能性があり、学生が現場へ出た時の会員、研究大会参加なども今後フォローしていきたいと思います。

支部オンライン例会での未会員参加者の参加費回収（実技例会では 500 円）については、今後検討していきたいと思います。

【以下、この間の財政状況のメモとして】

- ①収入減の大きな原因は民舞教室からの収益減。
- ②支出を抑えるために 2018 年度からは支部ニュースの自前印刷を実施し、これによって年間約 10 万円の支出減に成功。
- ③塩田さんの大学所有会議室（ハルカス）を三局会議で無料使用させていただいたおかげで、年間約 5 万円の会議費を減額。また、2020 年 7 月は神谷さんの関大梅田キャンパスを使用。可能な限り、会場費削減を今後も模索の必要。
- ④2019 年 4 月からのクロネコメール便の約 2 倍の郵送費値上げへの対応としては、郵便局（現在、西成局）での別納郵便の契約。これにより、郵送費の値上がりを 25% 増に抑えた。
- ⑤近年の支部財政課題である収入減が続く中、2019 年度は、新型コロナウイルスの影響で、大阪支部研究大会、民舞教室が未開催。ますますの支部財政逼迫の予想。備蓄金をやりくりしながらしのぎ、2021 年度以降は備蓄金を増やすためにも収入増についてこの一年間で様々な方策の検討と活動を。

#### 4. 事務局年間活動予定

9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新年度会員名簿作成</li> <li>・年間パンフレット作成 ★支部大会</li> </ul>	会費完納の取り組み ※たのスポ読者管理	
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間パンフレット（一次ビラ）</li> <li>●冬大会参加呼びかけ①★支部大会</li> </ul>	10月（一次ビラ）、11月（確定ビラ）支部ニュースにビラを入れる。	
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間パンフレット（確定ビラ）発送</li> <li>●冬大会参加呼びかけ②</li> <li>・財政点検活動</li> </ul>		①冬大会【 】 ②年間パンフ(表裏)【 】 ③新春ビラ【 】
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会費完納→1月三局までに各B建て替え 12月常任・五役</li> <li>・新年会企画 ●関近ブロック参加呼びかけ①</li> </ul>		①冬大会【 】 ②新春ビラ【 】
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>●関近ブロック参加呼びかけ② ※「民舞」後援申請</li> </ul>		①関近集会【 】
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>●関近ブロック研究集会（青年フェスタ）</li> <li>※たのスポ継続の取り組み①</li> </ul>		①関近集会【 】
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間総括</li> <li>○民舞教室の宣伝【1】 ※たのスポ継続の取り組み②</li> <li>◎同志会まつり呼びかけ【①】</li> </ul>		①同志会まつり【 】 ②中間研究集会【 】 ③民舞教室【 】
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支部大会、民舞教室パンフレット作成&amp;発送</li> <li>○民舞教室の宣伝【2】</li> <li>◆中間研究集会参加よびかけ【1】</li> <li>◎同志会まつり呼びかけ【②】</li> </ul>		①同志会まつ【 】 ②民舞教室&支部大会一次ビラ(会員&各ブロック)【 】 ※各ブロック分は担当者で ③中間研究集会【 】
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎同志会まつり</li> <li>・民舞教室パンフレット発送</li> <li>・支部大会&amp;全国大会パンフレット発送</li> <li>◆中間研究集会参加よびかけ【2】</li> </ul>		①支部大会一次ビラ【 】 ②中間研究集会【 】
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆支部大会&amp;全国大会参加者拡大</li> <li>・総括計画(事務局・研究局・研究部・編集局・たのスポ、ブロック、プロジェクト)</li> </ul>		①支部大会確定ビラ【 】 ②全国大会ビラ【 】
7 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総会準備 7月総括会議 全国大会に向けての準備</li> <li>◆大阪支部&amp;全国大会参加者の集約・拡大のよびかけ</li> <li>●関西大学水泳講座（事前打ち合わせで支部内水泳講座）</li> <li>・総括文書、運動文化研究、総会案内ビラ 発送</li> </ul>		①支部大会確定ビラ【 】 ②全国大会ビラ【 】

2022年度( '22. 9月～'23. 8月) 学校体育研究同志会 大阪支部 年間活動計画【案】

2022年8月19日

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	
1	木	土	火	木	1日	水	水	土 常任【中間総括】&50 周年記念実委:1-5	1月	木	土	火	1
2	金	日	水 三島:7-9	金 三島:7-9	2月	木	木	日	2火 三島:7-9	金 三島:7-9	日	水	2
3	土	月	木	土	3火	金 三島:7-9	金 三島:7-9	月	3水 同志会まつり	土	月	木	3
4	日	火	金	日	4水	土	土	火	4木	日	火	金	4
5	月	水	土	月 学習会:7:30-9黒井邸	5木	日	日	水	5金	月 学習会:7:30-9黒井邸	水	土 全国大会	5
6	火	木	日	火	6金	月 学習会:7:30-9黒井邸	月 学習会:7:30-9黒井邸	木	6土	火	木	日 全国大会	6
7	水	金 三島:7-9	月 学習会:7:30-9黒井邸	水	7土	火	火	金 三島:7-9	7日	水	金 三島:7-9	月 全国大会	7
8	木	土	火	木	8日 三島&新春講演:1-5	水	水	土	8月 学習会:7:30-9黒井邸	木	土	火	8
9	金	日	水	金	9月	木	木	日	9火	金	日	水	9
10	土	月	木	土	10火	金	金	月 学習会:7:30-9黒井邸	10水	土 【研究部例会③】:1-5?	月 学習会:7:30-9黒井邸	木	10
11	日 三島会議:10-12 総会:13-15 講演:15-17 @浪速区e	火	金	日	11水	土	土	火	11木	日	火	金	11
12	月 学習会:7:30-9黒井邸	水	土	月	12木	日	日	水	12金	月	水	土	12
13	火	木	日	火	13金	月 五役:7-9 オンライン	月	木	13土 中間研究集会	火	木	日	13
14	水	金	月	水	14土	火	火	金	14日 中間研究集会	水	金	月	14
15	木	土	火	木	15日	水	水	土 おもしろ体S③【実技】: 1-5?	15月	木	土 拡大常任:1-3 支部大会運営者会議3-5	火	15
16	金	日	水	金	16月 五役:7-9 オンライン	木	木	日	16火	金	日	水	16
17	土	月 五役:7-9 オンライン	木	土	17火	金	金	月 五役:7-9 オンライン	17水	土	月	木	17
18	日	火	金	日	18水	土	土	火	18木	日 大阪支部50周年記念行事?	火	金	18
19	月	水	土 【研究部例会①】:2-5?	月	19木	日	日	水	19金	月 五役:7-9 オンライン	水	土 新旧五役会議?	19
20	火	木	日	火	20金	月	月	木	20土	火	木	日	20
21	水	金	月 五役:7-9 オンライン	水	21土	火	火	金	21日	水	金	月	21
22	木	土	火	木	22日	水	水	土	22月 五役:7-9 オンライン	木	土	火	22
23	金	日	水	金	23月 学習会:7:30-9黒井邸	木	木	日	23火	金	日	水	23
24	土	月 学習会:7:30-9黒井邸	木	土	24火	金 常任:7-9	金	月	24水	土	月	木	24
25	日	火	金 常任:7-9	日 拡大常任&50周年記念実委:1-5	25水	土	土 1-3資料整理・黒井邸 3-5五役会議	火	25木	日	火	金	25
26	月 五役:7-9 オンライン	水	土	月 冬大会?	26木	日	日	水	26金	月	水	土	26
27	火	木	日	火 冬大会?	27金 常任:7-9	月	月	木	27土 常任&50周年記念実委:1-5	火	木	日	27
28	水	金 常任:7-9 OL ※年間ピラ!	月	水 冬大会?	28土	火	火	金 常任:7-9	28日	水	金	月	28
29	木	土	火	木	29日 おもしろ体S②?:2-3 オンライン		水	土	29月	木	土 支部大会(大阪市内)?	火	29
30	金 常任:7-9 オンライン	日	水	金	30月		木	日	30火	金 常任:7-9	日 支部大会(大阪市内)?	水	30
31		月		土	31火		金		31水		月	木	31
			大教組教研			大教組青年フェスタ 関近ブロック研究会		各ブロック民舞教室			各ブロック民舞教室	各ブロック民舞教室	

支部実技例会(おもしろ体育スクール)・・・今年度はリモートを中心?として研究局が構成・依頼する。4月は例年通りの実技例会を予定。【支部研究大会】北河内B⇒南河内B⇒大阪市内B⇒中河内B⇒泉州B⇒奈良B⇒豊能三島B  
※各ブロックへのお願いは・・・大阪支部例会(おもしろ体育スクール)への各ブロックからの参加を充実にして大阪支部全体の豊かな交流をはかるために、各ブロックでの例会日を可能な限り大阪支部例会前後2週間あけてくださるよう、ご協力ください。

2021年度 学校体育研究同志会 大阪支部  
決算報告

2022年9月

収入

項	摘要	予算	決算額
会費	6000円×98人	606,000	588,000
	10000円×1組	20,000	10,000
	5000円×0人		0
	2000円×17人	28,000	34,000
	1000円×0人		0
	小計	654,000	632,000
行事	民舞教室	15,000	37,600
	実技教室	0	1,000
	支部大会	0	60,000
	小計	15,000	98,600
前年度繰越金	24,212	24,212	
全国より補助		35,400	
その他 たのスポ等	0	67,500	
水泳指導講師料		55,000	
備蓄金より補填	204,788	0	
合計	914,000	912,712	

会費

一般 6000円

夫婦 10000円

学生 2000円※全国へ500円・キックオフなし

年度途中の入会

1月 200 4月 2000円

2月 200 5月 2000円

3月 200 6月7月 1000円

学生は一律1000円・キックオフなし

行事収入

民舞教室上納は、全収入から必要経費を引いた金額の80%を次年度会計に入れる。

支部大会上納は、7万円とする。

支部大会実行委員会との約束

パンフレットの経費は、二分の一負担する。

提案集は、負担しない。

11月末には会費徴収を終了し、未納者を出さないように各ブロックで立て替える。

支出

項	摘要	予算	決算額
中央上納	4000円×105人	420,000	408,000
	(学生) 500円×0人	0	
	小計	420,000	408,000
印刷	支部ニュース	10,000	0
	年間パンフ	10,000	6,390
	キックオフ	150,000	130,000
	民舞ビラ	6,000	5,320
	紙代	25,000	15,390
	封筒代	10,000	12,771
	小計	211,000	169,871
通信	ニュース発送	140,000	150,715
	はがき・切手	10,000	0
	情宣	0	0
	小計	150,000	150,715
会議	五役・常任・三局・50	30,000	8,420
	支部例会	10,000	1,560
	総会・新春記念	2,000	3,960
	小計	42,000	13,940
活動	編集局	3,000	0
	研究局	3,000	0
	事務局	3,000	0
	プロジェクト	3,000	0
	小計	12,000	0
その他	講師料	60,000	20,000
	全国大会総会出席	3,000	5,000
	たのスポ購入	15,000	24,000
	文具	1,000	453
	慶弔費	4,000	0
	その他の諸費	2,000	23,100
	小計	79,000	72,553
合計	914,000	815,079	

・その他の収入 OBさんよりたくさんのカンパを頂いた。

・その他の収入 全国大会などでの物販収入があった。

・全国から、会議費・講師料・中間研究集会の協力金の収入があった。

・関大の水泳指導の講師料としての収入があった。

・今年度も、会議をオンラインで行うことが多かった。

・キックオフ51号の発行は、次年度会計へ回す。

・その他の諸費にZOOMアカウント購入費がある。

・912712円-815079円=97633円を次年度へ繰り越す。

備蓄金 962214円

財政 下村 亮

2022年度 学校体育研究同志会 大阪支部  
予算案

2022年9月

収入

項	摘要	予算	前年度決算額
会費	6000円×100人	600,000	588,000
	10000円×1組	10,000	10,000
	5000円×0人		0
	2000円×17人	34,000	34,000
	1000円×0人		0
	小計	644,000	632,000
行事	民舞教室	50,000	37,600
	実技教室	1,000	1,000
	支部大会	70,000	60,000
	小計	121,000	98,600
前年度繰越金		97,633	24,212
全国より補助		25,000	35,400
その他 たのスポ等		30,000	67,500
水泳指導講師料		50,000	55,000
備蓄金より補填		0	0
合計		967,633	912,712

会費

一般 6000円

夫婦 10000円

学生 2000円※全国へ500円・キックオフなし

年度途中の入会

1月 200( 4月 2000円

2月 200( 5月 2000円

3月 200( 6月7月 1000円

学生は一律1000円・キックオフなし

行事収入

民舞教室上納は、全収入から必要経費を引いた金額の80%を次年度会計に入れる。

支部大会上納は、7万円とする。

支部大会実行委員会との約束

パンフレットの経費は、二分の一負担する。

提案集は、負担しない。

11月末には会費徴収を終了し、未納者を出さないように各ブロックで立て替える。

支出

項	摘要	予算	前年度決算額
中央上納	4000円×102人	408,000	408,000
(学生)	500円×4人	2,000	
小計		410,000	408,000
印刷	支部ニュース	10,000	0
	年間パンフ	10,000	6,390
	キックオフ	150,000	130,000
	民舞ビラ	6,000	5,320
	紙代	25,000	15,390
	封筒代	10,000	12,771
小計		211,000	169,871
通信	ニュース発送	140,000	150,715
	はがき・切手	0	0
	情宣	0	0
小計		140,000	150,715
会議	五役・常任・三局・50	30,000	8,420
	支部例会	10,000	1,560
	総会・新春記念	2,000	3,960
小計		42,000	13,940
活動	編集局	3,000	0
	研究局	3,000	0
	事務局	3,000	0
	プロジェクト	3,000	0
小計		12,000	0
その他	講師料	50,000	20,000
	全国大会総会出席	3,000	5,000
	たのスポ購入	15,000	24,000
	文具	1,000	453
	慶弔費	4,000	0
	その他の諸費	22,000	23,100
小計		95,000	72,553
合計		910,000	815,079

・各ブロックの民舞教室が復活しつつある。

・水泳指導、全国からの補助が収入面で大きい。

・その他の諸費にZOOMのアカウント購入費が含まれている。

・キックオフを2回(51号・52号)発行するよとい

備蓄金 962214円

財政 下村 亮

## 2022年度 編集局（部）方針（案）

### 1. 今年目標

#### ①支部研究の成果を伝え、会員同士を繋げます

支部研究は支部会員が持つ共通の研究課題です。支部研究の成果を会員の皆さんに分かりやすく伝えます。そして、ブロック例会などで報告している実践を紹介します。会員の実践や考えを伝えることで会員同士の理解を深めたり、刺激し合うことで、繋がりをつくり切磋琢磨し合う関係をつくれればと思います。

#### ②編集部からの発信

昨年度は3名の編集部員を迎え、今年度も新たな入れ替わりがあった編集部員ですが、7名体制を維持することができました。ありがとうございます。新たなメンバーでの「学びのすゝめ」を発信します。また、読み応えはあったのですが昨年度はあまり発信することができなかった「視点・論点・ところてん」です。新たな編集部メンバーとともにテーマを決め、より多く発信します。

#### ③読みやすい紙面を目指す

執筆された方と連絡を密にし、執筆者の方の思いや意図を反映することができている記事になっているのか、読みやすい分かりやすい記事になっているのかをチェックしています。読みやすい紙面を心掛けています。

#### ④紙面の記録

昨年度より行われているのですが、グーグルドライブで紙面を残し、編集部内で情報を共有し、紙面を記録しています。

### 2. 企画の概要

#### ①巻頭言

10月：古川（支部長） 11月：楠橋（研究局） 12月：佐々木（支部大会）  
1月：渡辺（編集局） 2月：中村（研究部） 4月：日名（事務局）



4月：市内B                      5月：北河内B                      6月：奈良B  
7月：南河内B                      8月：中河内B

※ 予定です。変更する場合があります。

## ②研究報告のページ

支部研究部例会、おもしろ体育スクールだけでなく、昨年度から研究部内の報告も行っています。今年度も引き続き報告してもらう予定です。

## ③ブロック、プロジェクト、OB会のページ

ブロック例会報告、私の実践紹介、支部会員の情報交流などブロックやプロジェクトに関する記事及び、OB会の活動を紹介します。

## ④「視点・論点・ところてん」

教育情勢・社会情勢について編集部内で学び、語り、発信します。

## ⑤たのスポ学習会報告

ブロックで行われる「たのスポ学習会」の様子を報告してもらいます。ブロックの中から新たな執筆者が出てきてくれることも期待しています。

夏号②	9月（中河内）		
秋号（①～③）	10月（奈良）	11月（豊能三島）	12月（南河内）
冬号（①～③）	1月（北河内）	2月（市内）	3月（泉州）
春号（①～③）	4月（中河内）	5月（奈良）	6月（豊能三島）
夏号（①）	7月（南河内）		

※担当月は原稿依頼をする月です。その月内に学習会を行って下さい。

## ⑥連載企画

- エッセイ                      : 新入生がどのように成長していくのかも楽しみです。引き続き小池深志先生にお願いしています。
- komaeda のつぶやき : 新たな気づき視点を常に投げかけて頂いています。
- 「学びのすすめ」        : 編集部員の学び、思いを発信しています。
- 「はじめてのお使い」（仮） : 幼年から発信して頂いています。リニューアルがあるかもしれません。

## 3. 編集局（部）メンバー

◎渡辺      ○藤沢      辻内・塩田・市川・奥・増田

## 2022年度 たのスポ大阪編集方針（案）

2022.9 大阪支部たのスポ編集班

### 【組織及び担当】

- ①メンバー 船富・武藤・山本あ・前田・出水・齋藤・窪田
- ②たのスポ担当号及び編集責任者 2023年春号 担当／窪田

### 【活動方針】

- 1) たのスポ 2023年春号（発行2023年4月）の企画。原稿〆切2022年12月31日
- 2) たのスポの編集に当たっては、編集意図を明確にした「読まれるたのスポ」を目指す。
- 3) 合評・学習会等をすると共に支部の意見も吸い上げ、それらが反映できる編集をする。

### 【活動方針を実現するために】

- 1) 毎回短時間でもたのスポの合評を行う。また、必要なときは特集に関するミニ学習会も適宜入れていく。
- 2) 対象読者をイメージしながら、「読まれるたのスポ」の編集に心がける。
- 3) 早めのプロット作成を心がけ、ゆとりのある編集を目指す。
- 4) 各ブロック等で行われる「たのスポ学習会」の情報を可能な限り集め、その声を編集委員会に反映させる。また、支部ニュースの「たのスポニ番煎じ」や、たのスポの「読者のページ」さらには他支部の支部ニュースでの「たのスポのページ」等を参考に読者の声をできるだけ把握するようにする。

### <2023年春号の趣旨>

#### 【主旨説明】

#### 特集1：「発達障害の子どもたちと共につくる体育の学習（仮）」

##### <特集の趣旨>

2012年度に行われた文部科学省の調査によると、通常学級に在籍する児童生徒のおよそ6.5%に何らかの発達障害があるという結果が示された。障害別では、学習障害（LD）の可能性が4.5%、注意欠陥多動性障害（ADHD）が3.1%、高機能自閉症は1.1%であるといわれている。また、10年前と比べて、特別支援学級に入級する児童生徒が10年間で2.7倍と倍増している結果がある。集団の中に潜む障害のある子の割合はさほど増えていないように感じるが、教員や保護者、そして地域や社会の見る目が変わり、発達障害に対する理解が深まる一方で様々な問題点も浮き彫りになっている。また、文科省が打ち出した「特別支援学級及び通級による指導の適切な運用について」の通知では、支援学級と通常学級の分断を起こす大きな改革が来年度に行われ、今まで大切にしてきた「共に学び 共に育つ」インクルーシブ教育とは逆行した形で学級編成が行われようとしている。特別支援教育における理念と現実が乖離している今、改めて特別支援教育の現状や発達障害についての理解を深めていきたいと考える。

そのような中でも学校現場ではそうした「気になる子」と集団の中で共に体育の学習をつくってきている。トラブルは問題も起きるが、「気になる子」と集団の関わり、先生との関わりの中で子どもたちの関係が少しずつ変わり、居心地の良い集団をお互いに作ろうとする歩みを大切にしてきた。本特集では、そうした「気になる子」にスポットをあてた集団づくりや体育の学習の在り方を探ることで、ともに学び、ともに育つ教育について考える契機としたい。

#### 特集2：「多様化する性の在り方に私たちはどう向き合うのか（仮）」

##### <特集の趣旨>

世界ではLGBTQなどを含む性的マイノリティへの理解がすすみ、多様化する性の在り方について考えが広がっている。日本の学校現場でも出前授業や保健の学習などでLGBTQを取り上げた学習をする機会も増えてきている。

近代スポーツにおいても多様化する性のあり方について関心が高まっている。昨年行われた東京オリンピックでは大会テーマのひとつに「多様性と調和」が盛り込まれ、LGBTQを公表して大会に参加する選手が過去最多であるという報道もあるなど、スポーツと性について理解が進んでいるように思う。翻って日本では、こうしたLGBTQに関する理解や法整備が政界の諸外国と比べてすすんでいないことが浮き彫りになった大会でもあった。自治体や省庁レベルでは少しずつ取り組みが広がっているが、LGBTQに関する法整備も進まず、差別的表現を用いたCMなどをメディアが放送するなど、社会的な理解が進んでいないのが現状である。多様化する性をみんなでも認めていきたい、受け入れたいと願う一方で、日本の社会や一部の思想ではそのような思いや願いを排除するようなどころが見受けられる。多様化する性の在り方をどう受け止め、どのように関わっていけばいいのか。私たち自身が多様化する性の在り方について深く学び、そして発信することが求められていると感じる。

発行までの日程

特集の確定・プロット案検討 ～9月3局

プロット案確定 ～9月3局

原稿依頼 10月3局で最終確認

原稿依頼完了 10月中旬

原稿〆切 12月31日

創文入稿 1月31日

ゲラ校正完了 2月28日

青焼き校正完了 3月中旬

発行 4月1日

## 6. その他

2022.9.11 支部総会

### (1) 来年度の支部大会開催方法について

輪番でいくと、来年度の主催は市内ブロックとなりますが、市内ブロック単体では開催は難しい状況にあります。そこで、どういった開催方法にするのか、総会・各ブロック総会で検討したいと考えています。

- |                       |
|-----------------------|
| 案① 主催：市内ブロック 会場：他ブロック |
| 案② 主催・会場：中河内ブロック      |
| 案③ 主催・会場：その他のブロック     |

(案②③ともに、市内ブロック員が実行員として運営に参加することも考えられます。)

また、「輪番で主催を回していくのは厳しくなっている」という意見も出されています。今後どのような開催方法を取っていくのか、今年一年かけて議論していきたいと思えます。

### (2) 2025年度全国大会について

全国総会の際に、「2025年度の全国大会をぜひ大阪で受けてもらえないか」と全国より打診がありました。五役会議では、次のように考えました。

- ・ 中堅から若手の会員中心で運営する。(みのお大会の「継承と発展」の実現)
- ・ 10月常任会議までに、運営に携わる会員(運営委員)が15名程度集まれば、開催を受ける。
- ・ ただし、実行委員が無理なくできる範囲での企画内容とする。
- ・ 準備期間をふまえ、2024、25年度の支部研究活動については縮小する。

#### ・ 実行委員体制草案

実行委員(主な対象)	企画・準備	全国大会当日
① 運営委員(中堅～若手)	○	分科会に参加せず。運営のみに注力
② 研究委員(ベテラン・OBOG)	△	分科会に参加+運営のサポート
③ サポーター(入会～3年程度)	×	分科会に参加+運営のサポート

このような草案を立ててみました。このような体制で、「運営委員をやりたい」という会員が一定数集まるかどうかをふまえ、10月末の常任会議をめぐり決定したいと考えています。

ただ、現在の大阪支部の中心メンバーが運営委員となった場合、多忙化が解消されない中では、例年のような支部活動を進めることは大変困難だと思われまます。そこで、大会前2年間は支部研究活動については縮小することとしました。また、開催の大きな課題として「会場をどうするか」ということでもあります。しかし、まずは支部として受けるかどうか、会員の意向を集約することが第一優先と考え、今回の提案となりました。

引き受けるかどうかは実行委員に関わらない会員にとっても、大きな問題となります。それをふまえて、総会並びにブロック総会で忌憚のない意見を出してください。

## 【常任会議を受けて】

8月常任で、なぜ、全国大会を今受けるのか。その意義は？という意見が出されました。

私なりにじっくり考えてみたのですが、「なぜ受けるのか・それは断る理由がない」というのが答えでした。また、「大会開催の意義は一人ひとり違う」ということを前提として、私なりにその意義を考えてみました。

### ① 組織づくりの絶好の機会

泉州ブロックでは、ここ数年「学級づくり」の報告・文責・検討といった研究がなされています。体育の学習（運動遊び）には、その土台となる「学級（なかま）づくり」のことを抜きに考えることはできません。同志会の研究活動においても、同じことが言えるのではないのでしょうか。集団研究を成立させるためには、「組織づくり」を抜きに考えることはできません。大阪支部では、各ブロックで支部大会を企画・運営してきました。その「組織作り」の力を発揮するのが、この全国大会ではないかと思うのです。そして、会員一人ひとりの企画・運営・実行力を高める、絶好の機会になるとも考えています。

### ② 今の大阪支部で全国大会をやりたい

今、大阪支部には約140人の会員がいます。会員一覧を眺めると、圧巻です。もちろん、全会員が一同に集まることは難しいです。それでも若手から中堅、ベテラン、退職された方までこんなにも仲間がいるということに、とても嬉しく心強くなります。今なら、若手の新しい発想やベテランの豊富な経験を最大限に生かしながら、中堅を中心にした企画・運営ができるのではないかと考えました。コロナ禍もおそらく収まっているであろう2025年。この全国大会を機に、多くの支部会員で一つ大きなことをやり遂げたいのです。そして、会員だけでなく、私たちに身近な教職員みんなで関われるそんな全国大会にできたらと考えています。

### ③ 無理のない企画・運営

この全国大会開催に関わって、運営委員に無理に誘うことはしません。現場にいる中堅・若手のメンバーで余裕のある人なんて、どこにもいないからです。それぞれが「自分にできること」を考え、お互いにできる範囲でカバーし合って、無理のない運営・企画を進めていきたいと考えています。もしかすると、大阪への期待感？からいろいろなことを言われるかもしれません。そんなときは立ち止まって「今の私たちにできることしかない。」ということ、みんなで再確認しましょう。そして、このような取り組みは、これからの支部活動の大きな財産になることでしょう。

まとまりのないことを述べてきましたが、もちろん心配や不安もたくさんあります。でも、私のように「大阪で全国大会を開きたい」「運営の立場に立ってみたい」「どれだけできるか分からないけど、やってみたい」という同じ志を持つ「同志」が集まれば、やるべきだと思います。何と言っても、私たちは「同志会」ですから。もし、受けることが決まれば、この他にも、「こんな意義があるんじゃないか」と準備期間に出し合っていきたいです。そして、みんなで作り上げ、みんなで意義を明らかにしていく全国大会にしていきたいと思っています。

## 第37回支部大会（延期大会）について

1. 日時 11月5日(土)、6日(日)
2. 場所 河内長野市立千代田小学校
3. 分科会構成 7月と同じ設定で行う
4. タイムテーブル

11月5日(土)

9時	45	10時	30	11時	30	12時	15	1時	30	2時	30	3時	4時	30	5時
受付	開 会 行 事	基 調 提 案	記念講演			昼食		分科会Ⅰ			移動	分科会Ⅱ			一日目のまとめ

11月6日(日)

9時	30	10時	11時	30	12時	30	1時	2時	3時	4時		
受付	分科会Ⅲ				昼食		分科会Ⅳ			二日目のまとめ	全体のまとめ	連絡など

※一日目 分科会2時間 二日目分科会2時間半

西谷講演が一日目の午前中しかとることができないため

### 5. 変更点

- ①記念講演の時間変更 ②水泳分科会は実技なし ③運動会分科会は代理報告で

### 6. その他

- ・今の情勢・感染状況がひどくならなければ、赤信号でも対面で行う。
- ・ビラに直前にホームページで確認することを明記（今回のビラは会員用）